

自然災害等、異常時における列車運行に関する申し入れについて議論

局地的な豪雨等により長時間に亘る列車抑止や運転休止が度々発生しています。天気予報の精度が格段に上がっている中、列車運転計画にもそれを大いに活用すべきで、無策のまま運転を継続し無人駅に留置を余儀なくされるなど、列車の運転・乗務員運用・車両運用等がスムーズに運用されているとは言い難く、多くの問題は解決されずにいます。

地本は、「申5号自然災害等、異常時における列車運行に関する申し入れ」を行い、2月6日業務委員会を開催。会社と議論してきました。回答と主な議論については以下の通りです。

《申し入れと回答》

1. あらかじめ大雨が予想される場合などは、気象情報を活用し、無理な列車の運転を行わないこと。

【回答】気象情報や河川水位監視装置などを活用し、災害が発生する可能性がある場合は、早期に列車を抑止するなど安全の確保に万全を期している。

2. 台風が接近した最中に出勤を強要することはやめること。

【回答】安全最優先の考えに基づき、気をつけて出勤するように指示しており、そのような事実は無い。

3. アケ、日勤勤務者は当日のうちに帰宅出来るよう手配し、二泊三日とにならないようにすること。

【回答】異常時における乗務員の運用については、列車の運行状況や勤務等を勘案して適切に対処している。

4. 各種運転規制により始発前に点検列車を運転させる場合、点検列車担当乗務員については後行路の手配を行い、長時間勤務とにならないようにすること。

【回答】適宜適切に対応している。

5. 運転再開時における確認列車を運転する場合の運転方向について基準を明らかにすること。

【回答】都度、関係者間で調整している。

6. 運転再開前にアルミカートで点検する場合としない場合の基準を明らかにすること。

【回答】運転見合わせ区間の何れかの社内・社外雨量計が運転規制値に達した場合等には、徒歩、又は、軌道自動自転車点検する。規制値に達していない場合は、基本、巡回をしないが、保線区長等の判断により実施する場合もある。

7. 10月に高山線では立て続けに熊と列車が衝撃している。また、雷雨の場合などアルミカート点検係員の安全性が危惧される。係員の安全性の観点での会社見解を明らかにすること。

【回答】列車が熊と衝撃した際については、地元の猟友会に協力を頂き対応する。乗務員からの目撃情報は、現業区へ連絡し注意喚起を行い、安全確保に努めていく。アルミカートの点検については、現地の点検係員からの天候情報を確認し判断しており、安全に実施している。

8. 列車遅延時の対応については、異常時等に手腕が問われる業務である。技術継承をしっかりと行い熟練度の向上に努めること。

【回答】異常時発生後、運転整理の振り返りを行うなど、列車遅延の縮小に向け検討している。又、教訓となる事象を全体に周知し、技術継承、及び、知識の補完に努めている。

《主な議論》

・災害が発生する可能性について

組合：水位計は何処についているのか。

会社：具体的な場所は今持ち合わせていないが、災害対応には会社を挙げて取り組んでいる。異常時対応にも改善に取り組む。

組合：その場合、マニュアルだけに頼っていては対応を誤る。地元で精通した対応を求める。

・出勤に関して

組合：前泊、早め出勤を求めることはないのか。

会社：気象に関わるところで一律には言えない。

組合：出勤方法について、第二経路が認められるか。列車から車などに変更で障害休暇について、車通勤の場合、通行止めでない場合に自己判断して列車で出勤の場合はどうか。

会社：先ず、安全が第一。遅れた場合など状況によるが、出勤が明らかにできない場合は障害休暇となる場合もある。判断は、その状況による。その時に管理者に相談されたい。

組合：鉄道マンとして、なるべく出勤したい気持ちがあるから確認しているが。

会社：鉄道マンとして、公共交通を担うものとして出勤したい気持ちがあることは理解している。しかし、社員を危険にさらして良いのか、との考えもある。判断は、その状況による。その時に管理者に相談されたい。

組合：人を確保したい側の管理者と、それに応じてしまう（断れない）側の社員との関係性がある。

会社：社員の安全を最優先に考える。出勤を強要することはない。

・点検列車、確認列車について

組合：寝る時間が少ないのに、更に寝られなくなる。後行路の手配をして欲しい。必ずとは言わないが、基本的な方向性はあるのか。紀伊長島駅の乗務員配置解消以降、明けの部分が長時間できつい行路が多い。

会社：状況を踏まえながら判断していく。

組合：万全の状態では運転できない。その時その時に左右され過ぎる。必ずとは言えなくとも、配慮すると回答できないのか。

会社：状況を踏まえながら判断していく。

組合：その時々により、片道であったり往復であったりするがどうか。

会社：決まりはない。

・アルミカート点検係員の安全性について

組合：私たちの申し入れの趣旨と回答がかみ合っていない。熊が出没する地域での係員の安全確保について聞いているのであり、雷が鳴っているときの安全確保を聞いている。

会社：衝撃した際は回答の通り。目撃された時などは、鈴、スプレー等を携帯している。雷の場合も、現場からの状況報告に基づいて安全の確保を行っている。

・列車遅延時の対応について

組合:抑止により列車が止まった場合、そのまま放置される。状況に変化が無くても、その時々
の状況を教えて欲しい。

会社:状況が変わらないことも含めて、情報発信に努めている。

組合:災害の多い6、7、8月は異動後の新人が対応する。振り返りでは対応できないのではない
か。

会社:振り返りと回答したが、定期訓練も行って技術継承に努めている。

組合:司令員個人に条件的な得手不得手(線区的な経験等)がある。問題ないように確かめて配
置されたい。

会社:乗務員からの声として聞いておくと、必要な技能知識は確かめている。

以 上